

第2章で紹介した被害が発生する要因を正しく除去していくことが被害軽減への近道である。3-1の柵や追い払いによる侵入防止の技術、3-3の被害対策のための捕獲と併せ、被害発生の原因となるエサ資源や潜み場の状況を改善することで防御や捕獲の対策も効果を発揮する。

1. 餌場を減らす

ヒコバエや放任果樹などを削減することは、野生鳥獣を誘引している原因を除去することになり、被害対策の効果を向上させることになる。ヒコバエを除去することで水田への出没も減れば、侵入防止柵の補修回数も低下することになる。出没の要因となっている柿などの放任果樹が減少すれば追い払いもしやすくなる。



写真3-2-1 ヒコバエや放任果樹を除去する

2. 潜み場の除去

野生鳥獣が安心して農地や集落に接近できる場所を減らす。集落内にある藪などを除去するだけでなく、侵入防止柵周辺に緩衝帯を設ける取り組みは大規模に集落周辺の潜み場を減らすことにつながる。また、近年では集落内を流れる河川周辺が大規模な潜み場となっている場合も多く、河川周辺の潜み場を除去することで被害対策の効果が発揮される。



写真3-2-2 緩衝帯により柵周辺の潜み場を除去する